

滋賀県立大学SDGs取組方針

令和元年6月4日

はじめに

滋賀県立大学は、「環境と人間」をキーワードとした幅広い学問分野を発展させるとともに、フィールドワークなど地域と密接につながる実践的な教育や、地域の課題を発見し解決するための研究および地域活動を進めています。また、「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」をモットーに「地域に根ざし、地域に学び、地域に貢献する人が育つ大学」を目指し、全学を挙げて地域志向の教育、研究、地域貢献活動に取り組んできました。例えば、全学・全学科を対象とした地域教育プログラムである近江楽士（地域学）副専攻や、地域再生のリーダーとなる人材を養成し、地域のニーズに応える近江環人地域再生学座〔大学院の副専攻プログラム〕は、本学の地域志向を表す特徴的な取組です。

一方、国際社会においては、2015年9月の国連サミットにおいて2030年までの「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals：SDGs）」が全会一致で採択されました。SDGsは、持続可能な開発のための17の目標と169のターゲットからなる国際社会全体の共通目標であり、本学の基本的な考え方やこれまでの教育、研究、地域貢献活動とも深くつながるものです。

本学は、「地域貢献大学のリーディングモデル」を目指しており、その一環として2018年6月に「滋賀県立大学SDGs宣言」を行いました。これは本学のこれまでの取組の方向性と国際的な行動目標であるSDGsとを融合させることの宣言でもあります。本学では、これまでもその資源や特徴を活かし、持続可能な社会の実現に向けた活動をしてきたところですが、今後、さらにこれを発展させて教育、研究、地域貢献活動の各分野にわたる全学的な取組を行うため、滋賀県立大学SDGs取組方針を策定し、実施します。

1. 本学におけるSDGsに関する基本的な考え方

本学におけるSDGsに関する基本的な考え方は以下の通りです。

1. SDGsの学びと理解

本学では、教職員と学生等、学内のすべての構成員が共に学びあい、成長しあいながらSDGsを理解し、一人ひとりが持続可能な社会の構築に向けた取組に努めます。

2. 地域課題・地球的課題の解決

本学は、多様な学内の資源を活用した教育・研究活動を通じて、持続可能な社会の実現に向けた知識と解決策を提供し、グローバルな思考と実践をもって、地域課題・地球的課題の解決に貢献することを目指します。

3. 全学的な推進体制の充実と各主体の取組

SDGsに係る取組の推進に当たっては、大学運営組織、教職員、学生等のそれぞれの主体がもつ強みや資源が最大限に活用されるよう相互に協力・連携することとし、全学的な推進体制を充実します。

2. 本学において重点的に取り組むテーマ

この基本的な考え方を踏まえ、本学の特性を活かしつつ、SDGsの普及啓発やその達成に向けた取組を進めていく必要がありますが、本学は教育機関であるとともに、「地域に根ざし、地域に学び、地域に貢献する」のモットーに示されるように、地域とともにその活動を高めあうことを大きな特徴としていることから、今後も地域において本学の果たすべき役割を十分理解したうえで取組を行うことが大切です。

この取組を進めるにあたっての主な課題は、以下の通りと考えられます。

SDGsに係る取組の推進を行う上での主な課題

- 学生や地域住民がSDGsについて学ぶ機会の確保
- SDGsの達成に寄与する学術研究の推進
- 多様な関係者がSDGsにとともに取り組むための交流と連携の場の確保
- 社会の構成員がSDGsの本質を理解し、行動を起こすために必要な情報の提供

これらの課題を踏まえ、「SDGsの地域化※¹の拠点」として、本学が重点的に取り組むテーマを整理すると、以下の4つにまとめることができます。

「SDGsの地域化の拠点」として本学が重点的に取り組むテーマ

- ① 学びの拠点としての機能の充実・強化
- ② 学術研究の拠点としての機能の充実・強化
- ③ 交流と連携の拠点としての機能の充実・強化
- ④ 情報発信の拠点としての機能の充実・強化

また、これらの拠点機能が地域社会に及ぼす効果としては、以下の3点が考えられます。

本学の「SDGsの地域化の拠点」機能が地域社会に及ぼす効果

- ① 持続可能な社会の実現に貢献する実行力のある人材の育成
- ② 地域におけるSDGsの普及啓発と促進への貢献
- ③ 研究成果の活用と普及

¹ 「SDGsの地域化」・・・国際的な行動目標であるSDGsを教育機関、企業、NPO、地域住民、自治体等の関係機関に対して普及啓発するとともに、地域課題・地球的課題の解決に寄与しうる活動を共に推進すること

SDGsについて、本学が重点的に取り組むテーマとそれが地域社会に及ぼす効果をまとめて図示すると以下の通りとなります。

地域貢献大学のリーディングモデル ～SDGsの地域化の拠点～

<重点的に取り組むテーマ>

学 び の 拠 点

- ・本学の学生や教職員はもとより、多様な関係者に対して、SDGsについての学びの機会を提供する。

学 術 研 究 の 拠 点

- ・本学における学術研究の資源を活用して、地域におけるSDGsの推進に貢献する。

交 流 と 連 携 の 拠 点

- ・学生や教職員、地域住民、企業、自治体等の多様な関係者が、地域におけるSDGsの取組を効果的に推進できるよう、交流と連携の場と機会を提供する。

情 報 発 信 の 拠 点

- ・SDGsに関する情報を幅広く収集し、学内外に効果的に発信する。

<拠点機能が地域社会に及ぼす効果>

持続可能な社会の実現に貢献する 実行力のある人材の育成

- ・SDGsの達成に貢献する「知と実践力」を備えた人材を、学生はもとより、地域において育成する。

地域におけるSDGsの 普及啓発と促進への貢献

- ・地域でのSDGsの普及啓発に努めるとともに、多様な関係者と連携・協力することにより、グローバルな視点で地域に貢献する。

研究成果の活用と普及

- ・科学技術の高度化、環境の保全・改善、地域社会の福祉等に貢献するため、本学の研究成果のより一層の活用と普及を図る。

3. 「SDGsの地域化の拠点」としての取組

次に、本学で行うSDGsの地域化に係る取組の内容について、以下の通り、4つの拠点機能ごとに例示します。

1) 学びの拠点としての取組

① SDGsに係る理解促進

- ・SDGsに係る理解を促進し、その達成に資するため、教育活動において学生との対話等を通じて共に学びあう。
- ・本学のFD/SD研修会等の実施を通じて、教職員のSDGsに係る理解を深める。

② SDGsに係る教育プログラムの学外波及

- ・学内外の多様な関係者がSDGsについての理解と関心を深め、具体的な行動を起こすきっかけを創出するため、SDGs関連の単位互換科目の実施等を通じてSDGsに係る取組の学外波及を図る。

③ 地域においてSDGsに取り組む人材の育成

- ・地域課題解決に貢献する意欲的な社会人・実践者等を対象としたワークショップや企業、NPO、自治体、教育機関等の関係団体を対象とした出前講座等を実施することにより、地域においてSDGsに取り組む人材を養成する。

④ SDGsに係る生涯学習の機会の提供

- ・SDGsに関係する公開講座やシンポジウム等を広く公開し、生涯学習としての教育機会の提供に取り組む。

2) 学術研究の拠点としての取組

① SDGsに係る研究の推進

- ・公募型地域課題研究事業の実績とノウハウを活かして、SDGsの視点に基づく持続可能な社会を推進するために、SDGsに特化した地域課題の研究を県・市町と連携して実施する。また、提案課題研究等を通じて地域や社会が求めるテーマについての研究を行う。

3) 交流と連携の拠点としての取組

① SDGs 関連イベントの実施等による交流・連携の機会の創出

- ・SDGs 学生大会をはじめとするイベント等を実施することにより多様な関係者が持続可能な社会の実現について交流したり連携したりする機会を創出する。

② 他大学や企業、自治体等の関係機関との連携

- ・他大学、企業、NPO、地域住民、自治体等と十分な連携をとり、それぞれの強みや特性を活かしたパートナーシップを構築し、交流や連携の機会を創出する。

③ 小・中・高等学校等の教育関係機関との連携

- ・持続可能な社会の実現に関わる教育を進めようとする小・中・高等学校等の取組に協力し、連携を強める。
- ・学生の地域活動「近江楽座」では、近隣の小・中・高等学校でのSDGsの啓発にも取り組んでおり、こうした取組を軸とした新たな連携関係の構築に取り組む。

④ 教育活動や課外活動を通じた学びと地域への貢献

- ・教育活動を通じて持続可能な社会の実現に関わる地域貢献に積極的に取り組むとともに、近江楽座、サークル活動、湖風祭等の学生主体の課外活動を通じて、SDGsが目指す理念を社会との関わりの中で体得し、その達成に貢献する。大学は、このような学生活動を積極的に支援する。

4) 情報発信の拠点としての取組

① SDGsの普及啓発

- ・イベントや会議等においてSDGsや持続可能な共生社会をテーマに取り上げるなど様々な手段を用いて、地域に向けてのSDGsの普及啓発を図る。

② SDGsに係るマッピングの実施と公表

- ・学内の教育・研究活動の取組について、SDGsに係るマッピング^{※2}を行い、本学の教育・研究活動とSDGsの達成との関連性を明らかにするとともにこれを公表する。

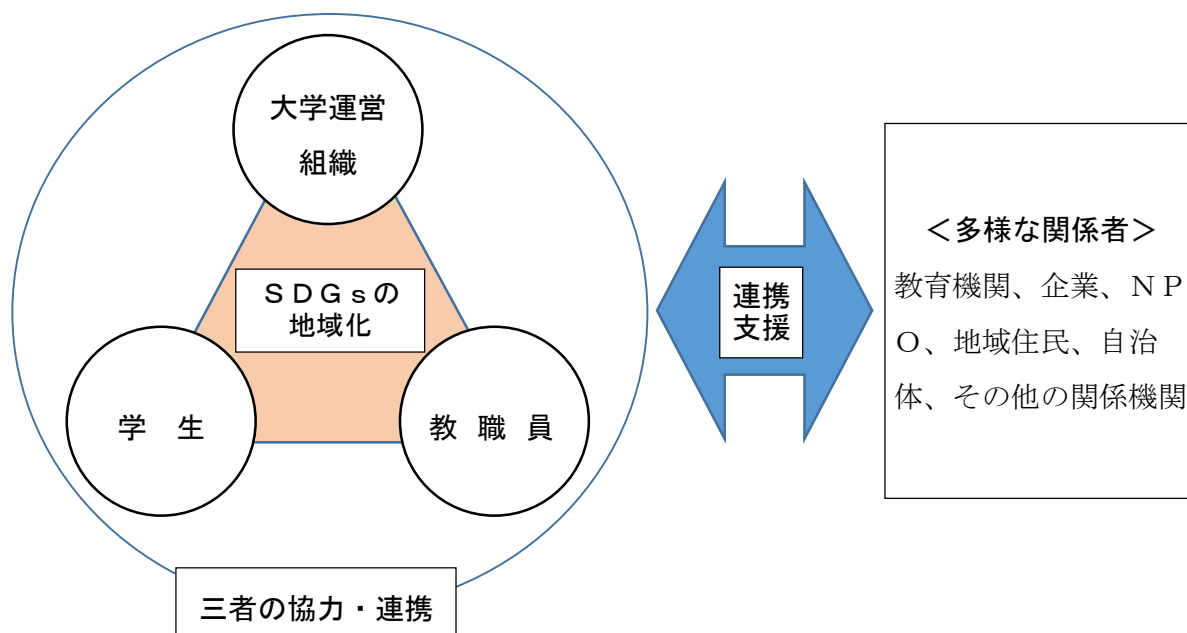
² SDGsに係るマッピング・・・

本学の教育・研究活動等とSDGsの各目標の達成との関係性をわかりやすく整理し、「見える化」すること

4. 大学運営組織、教職員、学生に期待される役割

次に、「SDGsの地域化の拠点」としての取組において、本学の各主体に期待される役割について述べます。

本学におけるSDGsに係る取組の推進は、大きく分けて、大学運営組織、教職員、学生の三者によって担われると考えられます。これら三者が相互に協力・連携し、その強みや資源を最大限に活かしていくことによって、その取組を効果的、効率的に推進します。



■大学運営組織の役割

- ・本学の持続可能な社会の実現に係る取組が効果的になされるよう、地域連携推進本部等の部局横断的組織を中心とする全学的な推進体制を構築し、全体の調整や進捗管理等を行う。
- ・教職員や学生がSDGsの理念を正しく理解し、主体的に行動できるよう支援する。
- ・滋賀県をはじめとした行政、地域住民、教育機関、企業、NPO等の多様な関係者との連携を強化し、持続可能な社会の実現に係る取組の推進に向けた相互理解、情報共有、活動支援等に取り組む。

■教職員に期待される役割

- ・SDGsを理解し、その達成に資するための知識、スキル、動機づけを学生に提供するとともに、学生との対話等を通じて共に学びあう。
- ・SDGsの視点を取り入れた教育の充実を図る。

- ・社会におけるSDGsの達成に寄与し、支援するために必要な知識、技術、解決策をもたらす研究成果を社会に還元する。

■学生に期待される役割

- ・SDGsについて学び、SDGsと日々の暮らしや社会との関わりについて理解を深める。
- ・自身の研究活動等を通じてSDGsの達成に資する課題の解決方法を主体的に見出し、それを実践する能力を身につける。
- ・多様な課外活動を通じて、SDGsが示す理念を社会との関わりの中かで体得し、その発信や達成に貢献する。

実施に向けて

この取組方針を実施するためには、大学運営組織、教職員、学生がそれぞれの立場から、SDGsや持続可能な社会のあり方について、自らができることを真摯に考え行動することが不可欠です。それぞれの主体が連携しあい、学び合う機会を創出するとともに、関係する他団体との効果的な連携によるSDGsの地域化に全学を挙げて取り組んでいきます。